



The Comet

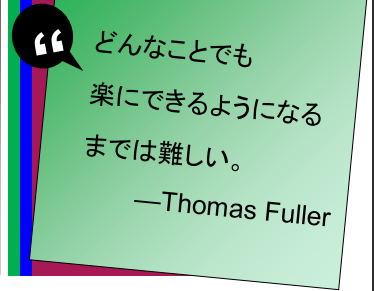
The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 28 | Issue 2 | December 2024



今号では...

- ▶05...Numicon Firm Foundationsの紹介
- ▶07...かかしコンクール結果
- ▶08...K3における科学的方法
- ▶10...秋のフードドライブ
- ▶10...G2のハッピーホリデー
- ▶13...KPASS MSDドラマフェスティバル
- ▶15...生徒アンバサダー
- ▶19...G9湘南でのキャンプ
- ▶20...優れたリーダーとは？
- ▶21...サイバースペースのデジタルの深淵
- ▶22...G11 DPキャンプの思い出
- ▶24...スクールカレンダー2025-26



学校長より

セメスター1の振り返り

2024-25年度も中盤に差し掛かり、ケイ・インターナショナルスクール東京での実り多きセメスター1を振り返る良い機会となりました。今年には新しい校舎での最初の1年となり、私たちは新しい環境からもたらされる成長と様々な機会にワクワクしていました。



今セメスターのハイライトのひとつは、新しいサブ・フィールドの開設でした。このフィールドは、すでに生徒やスタッフにとって貴重なリソースとなっています。現在建設中のメイン・フィールドはセメスター2までに完成する予定で、アスレチックと野外アクティビティのための2つのフィールドが利用できることとなります。

また、セメスター1は生徒の学業面での成功を支援するため、集中サポートプログラムと宿題サポートプログラムを導入しました。さらに、放課後のエンリッチメントプログラムを充実させ、生徒が新しい興味を探求し、スキルを伸ばす機会が増えました。

多くの充実した遠足やイベントを通して学校コミュニティが集まる機会を得ました。K1は木場公園とクリップアートスタジオを訪れ、K2はお台場のTHE KIDSアクティビティパークを楽しみました。K3は「Play! Park Eric Carle」の展示を探検し、韓国料理レストランで特別な食事体験をしました。G1は江戸深川資料館を訪れ、G5はマザー牧場でのチームビルディングに参加しました。G9は湘南での一泊キャンプに行き、G11は三浦でのキャンプと東京現代美術館へのTOK遠足に参加しました。

運動部では、JVとU18の女子バレーボールチームがKPASSとISTAAの両リーグで2位に入賞しました。この成果は、選手たちの献身とチームワークの努力の賜物です。

また、生徒たちは有意義な奉仕活動にも取り組みました。UFRのリース・ワークショップに参加し、石川県へのタオルの寄付集めを主導し、バイクセールを企画し、支援が必要としている子どもたちをサポートする「こども食堂」に貢献しました。これらの活動は、生徒たちが地域社会への貢献を大切にしていることを反映しています。

さらに、インドのお祭りであるディワリ祭について、Community Associationからプレゼンテーションがあり、生徒たちはディワリ祭の意義について学び、伝統的な木製のランプであるディヤを受け取りました。



これから先、メイン・フィールドの完成を楽しみにしながら、プログラムの継続的な成長に期待しています。今セメスターを成功に導いてくれた生徒、保護者、先生、スタッフの皆様感謝いたします。

Kevin Yoshihara Ed.D.
Head of School/Elementary School Principal

重要な日程



2024年12月

- 6 (K3-G5) LEAP classes end
- 6 (K1-G3) After care not available on this day
- 7 SAT@KIST
- 9-10 (G6) Semester 1 exams
- 9-11 (G7, G8) Semester 1 exams
- 9-12 (G9, G11) Semester 1 exams
- 9-13 (G10) Semester 1 exams
- 12 (W) Winter celebration rehearsals (*Tentative)
- 13 (W) Winter celebration (*Tentative)
- 13 End of semester 1
- 13 (K1-G3) After care not available on this day
- 14-Jan 6 Winter vacation
- 16-17 Office open

2025年1月

- 6 Staff development day (No school for students)
- 7 School resumes for all students / Semester 2 commences
- 7-14 (G12) DP mock 1 exams
- 10 2025-2026 admissions applications close
- 13 (G6-G10) Mathematics diagnostic assessments (*Morning)
- 13 (G6-G11) Half day for students
- 15-17 (G6-G8) GL English diagnostic assessments
- 17 (G6-G11) Semester 1 reports issued
- 24 (E) Semester 1 reports issued



エレメンタリースクールニュース

BEHAVIOR



エレメンタリースクールでのポジティブな行動管理

ケイ・インターナショナルスクール東京では、生徒一人ひとりが学業面でも社会面でも成長できるよう、前向きな学習環境の整備に努めています。今年度、エレメンタリースクールの新しい副校長であるMr. Archerが、不適切な行動を記録しつつ、前向きな行動を評価する新しい行動管理システムを導入しました。

このシステムでは、**生徒自身や周囲の人々に影響を与える行動**に焦点を当て、生徒が自分の行動が他者や自身の学習にどのような影響を与えるのかを理解できるよう支援します。また、当校のミッションに沿った**高い道徳性**を育むことも重要な要素となっています。

行動管理には「Ladder System(ラダーシステム)」を採用しており、賞賛と介入を段階的に組み合わせたアプローチを行っています。不適切な行動が見られた場合は段階的に介入を増やしながらも、前向きな行動は常に称賛されます。調査によると、建設的なフィードバックに対して、3つの肯定的なコメントを続けることで、子どもの自尊心を高める効果があるとされています。この原則は当校のシステムに

おいても不可欠であり、生徒一人ひとりの成長をサポートする基盤となっています。

KISTでは、規律を乱す行動が起こることはめったにありませんが、万が一起こった場合には、生徒一人ひとりに合ったサポートを提供し、その成長を確実に支えていくことをお約束いたします。導入から間もないこの新しいシステムですが、すでに良好な結果が見られており、行動の改善が見られるとともに、保護者の皆さまからうれしいフィードバックをいただいております。

生徒の行動や道徳的な人格の育成は、学校とKISTファミリーが共に担う重要な責任です。引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

Kevin Yoshihara Ed.D.
Head of School/Elementary School
Principal



PYPニュース

IBの「学習のアプローチ」を探る

今年の初めに行われた保護者説明会では、IBの「学習へのアプローチ(ATLs)」に関連する、お子様の成長分野を強調していただくようお願いしました。そこで今回のThe Cometでは、ATLとは何か、なぜATLが重要なのか、そしてATLがIBの教育体験をどのように豊かにするのかについて考えてみたいと思います。

「学習のアプローチ」とは？

IBの「学習へのアプローチ」は、生徒が学校内外で成功するために不可欠な一連のコアスキルを包括しています。これらのスキルは、5つのカテゴリーに分類されます：コミュニケーション能力、ソーシャルスキル(社会技能)、自己管理能力、リサーチ力、思考力。各カテゴリーは、生徒がさまざまな課題に取り組むために必要な豊かな人間性を育むことをサポートします。

- コミュニケーション能力:** 効果的なコミュニケーションは、学習と交流の基盤です。この領域には、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、発表することが含まれます。自分の考えを明確に表現し、意味のある対話を行う能力は、学業的な成果を上げるためにも、個人的・職業的な強い人間関係を築くためにも極めて重要です。
- ソーシャルスキル:** ソーシャルスキル(社会技能)は、協調性、人間関係の構築、前向きな学習環境への貢献などを含みます。生徒は、仲間を尊重し、多様な考え方を認め、対立を建設的に解決することを学びます。これらのスキルは、チームワーク、リーダーシップ、地域社会への参加に不可欠であり、生徒がグローバルな世界に対応できるよう準備を整えます。
- 自己管理能力:** 自己管理能力は、個人の整理整頓、自己管理、精神的回復力(レジリエンス)に重点を置きます。時間管理、目標設定、ストレス管理などのスキルは、学業と課外活動の両立に不可欠です。これらのスキルを身につけることで、生徒がより自立し、積極的に学習に取り組むことができるようになります。
- リサーチ力:** リサーチ力は、探究型学習の基本です。この領域には、問題を提起し、情報を収集・分析し、証拠に基づいた結論を導き出す能力が含まれます。これらのスキルは、アカデミックなプロジェクトや実社会の問題解決に不可欠であり、生徒が批判的かつ情報に基づいた視点で課題に取り組むことを可能にします。
- 思考力:** 思考力には、批判的思考、創造的問題解決、分析的推論が含まれます。生徒は情報を評価し、理性的な判断を下し、革新的な解決策を考案することが奨励されます。これらのスキルは、学業的な成功と複雑な問題に対する柔軟な対応に必要です。

なぜ「学習のアプローチ」が重要なのか？

これらのスキルは単なる学問的な道具ではなく、自立心、効果的なコミュニケーション、協調性、問題解決能力を育むために重要です。これらのスキルに焦点を当てることで、国際バカロレア(IB)は次のような学習者の育成を目指します。

- 自発的・自律的学習者:** 自己管理能力とリサーチ力を身につけた生徒は、学問的な関心を追求し、自信を持って課題に取り組むことができます。



- 効果的なコミュニケーターとチームプレーヤー:** 強力なコミュニケーション能力とソーシャルスキル(社会技能)により、生徒は効果的に協力し、自分の考えを明確に表現できます。
- 批判的・創造的な思考者:** 思考力を養うことで、生徒は複雑な問題を分析し、革新的な解決策を生み出すことができます。

ATLはどのようにカリキュラムに組み込まれているのか？

KISTでは、以下のような方法でこれらのスキルを学習に取り入れています：

- 探究型学習:** 生徒はATLのスキルを活用するプロジェクトや調査に取り組み、実践的でインタラクティブな学習体験を得ています。
- 反省的実践:** 振り返りやフィードバックの機会を設けることで、生徒が学習の進捗状況を評価し、個別の学習目標を設定できるようにしています。
- 共同作業:** グループ活動やディスカッションは、社会性やコミュニケーション能力の発達を促し、生徒が他者と効果的に協力できる力を育みます。

家庭でできることは？

教師は、生徒がこれらのスキルを確実に身につけられるよう、必要なサポートと励ましを提供し、生徒を導く重要な役割を担っていますが、保護者の方もご家庭でお子様のIBの学習アプローチ(ATL)の発達をサポートすることができます。コミュニケーション能力を育むには、学校での活動について日常的に会話をし、お子様が自分の考えやアイデアを明確に表現できるよう促します。ソーシャルスキル(社会技能)を身につけるためには、相手を尊重する礼儀正しい行動を教えたり、グループ活動や家族のプロジェクトに参加させ、共同作業を練習させます。また、お子様と一緒に学習スケジュールを立て、それを守り、個人的な目標を設定し、時間を効果的に管理することで、自己管理能力を高めることができます。リサーチ力のサポートとしては、興味のあるトピックの探究を促したり、情報源を確認する方法を教えたり、簡単なリサーチ・プロジェクトを実施するなどが挙げられます。最後に、ディスカッションや問題解決ゲーム、内省的な質問などを通して批判的思考を促し、思考力を養うことも重要です。これらに積極的に取り組むことで、保護者の方はATLを強化し、お子様が自立し、思慮深く、優れた学習者に成長するのを助けることができます。

コミュニケーション、社会的インタラクション、自己管理、リサーチ、思考力を重視することで、国際バカロレア(IB)は、生徒が豊かで適応力のある人間になり、将来的に成功することを目指しています。私たちのコミュニティが、学校でも家庭でもこれらのスキルを大切にすることで、生涯にわたる人間的成長が促され、学業成績だけでなく、生徒たちの総合的な成長に欠かせないものとなるでしょう。

Oliver Sullivan
PYP Coordinator



幼児教育ニュース



ECE園庭リニューアル

KISTファミリーの皆様、こんにちは！皆様元気でお過ごしですか。ご家族と楽しい冬休みを迎える日を心待ちにされている頃かと思えます。

今回は10月の土曜日午前中に幼稚園の園庭に人工芝を敷く作業に参加して下さった保護者とスタッフの皆様へ感謝をお伝えしたいと思います。今回使用した人工芝は、今まで校庭で使用していた人工芝を再利用しましたが、こちらがとても重く、簡単な作業ではありませんでした。

おかげさまで、子ども達は今、とても嬉しそうに園庭を走り回ったり、ゲームをしたり、ピクニックランチを食べたりと楽しく過ごしています。

お手伝いいただいた保護者の皆様

K2A Evan's dad, K2B Rui's dad and grandfather, K1B Yuri's dad, K1B Jiaze's dad, K2B Yuito's dad, K3B Lili's dad, K3A Sena's dad, K3A Sakuya's dad, K1B Erina's dad, K2A Tensei's dad, K3B Mingzhi's dad, K2B Hanzhi's mum, K1B Sara's dad, K3A Zen's dad, K1B Rintaro's dad, K2A Xinyun's dad, K3A Sae's dad, K2B Eunsung's mum, K1B Rinka's dad

また、お手伝いいただいたスタッフの皆様

Dr. Yoshihara, Mrs. Naito, Mr. Maeda, Mr. Komatsu, Mr. Takayama, Mr. Naito, Mr. Nogami, Mr. Sakuma, Mr. Capiral, Mr. Shimoji

改めて、心より感謝申し上げます。

現在、幼稚園園庭を新しくする計画を進めています。夏までには新しい園庭を皆様にお披露目できる予定です！

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator/K2A Teacher



Numicon Firm Foundationsの紹介

プログラムの背景にある哲学

KISTの幼児教育プログラムでは、最近Numicon Firm Foundationsを学習に取り入れ、生徒への算数の教え方に革命を起こしています。この記事では、この革新的なプログラムがどのようなものか、そしてなぜ早期教育の一部として注目されているのかをご紹介します。

近年、幼児教育における算数教育のアプローチは大きく変わりつつあります。その中でも特に注目されているのが、Numicon Firm Foundationsという、子どもたちの数字や数学的な推論への好奇心を引き出すプログラムです。このプログラムがなぜこれほど効果的なのでしょうか。その背後にある哲学について詳しく見ていきましょう！

Numiconとは？

Numiconは、算数を教えるための多感覚的なアプローチで、触覚的・視覚的なツールを活用し、子どもたちが抽象的な数字の概念をより深く理解できるように設計されています。その中核となるのが、Numicon Shapesと呼ばれる、数字をパターンで表すカラフルかつ構造化された教材です。このツールを通じて、特に重要な幼児期において、すべての子どもたちが算数を身近で魅力的に、そして直感的に学べるよう支援します。

算数の基礎を固める

Numiconプログラムは、早期教育の「基礎固め」に特に重点を置いています。このプログラムは、「適切なサポートとツールがあれば、すべての子どもが算数に対する自信と能力を身につけられる」という信念に基づいています。その哲学は、以下のような早期教育の重要な原則と密接に関連しています。

- **抽象的な学習より具体的な学習を:** Numiconでは、具体的な学習から抽象的な学習へと進むことを大切にしています。子どもたちは、抽象的なシンボルや数字に進む前に、まず物理的・視覚的に算数を体験します。このアプローチにより、基礎となる概念を暗記ではなく深く理解することができます。
- **遊びを通して学ぶ:** Firm Foundationsでは、遊び心あふれる実践的なアクティビティを取り入れることで、幼い心を自然に引きつけます。子どもたちはプレッシャーのない楽しい環境で数学的なアイデアを探求し、好奇心や算数への前向きな姿勢を育みます。
- **学習における包括性:** 子どもによって学習スタイルは異なるため、Numiconの多感覚的なツールは、多様な学習スタイルに対応しています。触覚的な図形、視覚的なパターン、ガイド付きアクティビティは、多様なアプローチで理解を助けます。これにより、特別な教育的ニーズを持つ子どもたちを含め、すべての子どもにとって算数を身近なものにします。
- **数学的会話の奨励:** Numiconの哲学の重要な部分は、

数学的な会話を促進することです。子どもたちはNumicon Shapesを操作しながら、自分の考えを説明することで、推論力や問題解決力、コミュニケーション能力を育みます。

- **自立心とレジリエンス(忍耐力・回復力)の育成:**

Numiconの体系化されたアクティビティは、子どもたちが自ら探求し、解決策を見つけることを支援します。これにより、自立心とレジリエンス(忍耐力・回復力)を育み、将来的により複雑な数学的概念に取り組む準備を整えます。

なぜ効果があるのか？

Numicon Firm Foundationsの成功の鍵は、抽象的な算数の概念と現実世界を結びつける能力にあります。数字を視覚的に分かりやすく表現することで、算数の学習が難しく感じられる状況や、学習に対する不安を軽減します。また、実践的なアプローチは、若い学習者の興味を引き、積極的な学びを促します。

より広いビジョン

Numicon Firm Foundationsは、すべての子どもたちが正しい一歩を踏み出して算数の旅を始められるよう支援しています。このプログラムは、算数が恐れるべき教科ではなく、「パターンと可能性の言語」であることを伝え、すべての子どもが算数を楽しみ、受け入れられる世界を目指しています。

Numicon Firm Foundationsは、子どもたちの理解を深め、自信を育み、数字への愛情を育てることで、教室の枠を超えたスキルを身につけさせ、生涯学習や将来の成功への確固たる基盤を築きます。

Anita Prashar

Elementary Mathematics Coordinator/
Grade 3A Teacher



参考資料:

- Oxford owls guide on meeting early learning goals: https://cdn.oxfordowl.co.uk/2020/12/04/10/41/21/e6d08812-e41a-432c-a740-8473999056eb/Numicon_How_FF_meets_ELGs.pdf
- Oxford Education Blog: https://educationblog.oup.com/early-years/why-i-love-numicon-firm-foundations?utm_source=

K1 How We Express Ourselvesへの導入

K1では、ユニット「How we express ourselves (私たちはどのように自分を表現するのか)」の中で、想像力を使って感情を表現することや、アートを通して創造性を発揮することに焦点を当てています。今回、子どもたちがさまざまな画材や音楽を通じて感情やアイデアをどのように表現するのか、その予備知識を引き出すための魅力的なProvocation(ユニットの導入部分)をデザインしました。



教室は、絵の具、切り絵、スタンプ、紙など、さまざまな画材が並ぶ活気あふれるアトリエへと変身し、子どもたちはアートを通して、自分の考えや感情をさまざまな方法で表現することに挑戦しました。中でも、特にみんなが楽しんだのは、テーブルの下に寝そべて、絵を描くアクティビティです。まるでミケランジェロのシスティーナ礼拝堂を連想させるようなアートが完成しました。子どもたちはリスクを恐れずに新しいことに挑戦し、スタンプを工夫して使いながら紙に模様を描きました。また、カラフルな切り絵を選んで美しいコラージュを作り上げることに誇りを感じていました。



さらに、ペイントブラシを手に取り、壁に貼られた長い紙に自由に絵を描いてミューラルアート(壁画)に取り組む場面では、子どもたちの芸術的なスキルが輝きました。この活動は、子どもたちが持つ生まれながらの芸術的な能力を探索する機会となり、率直に、そして存分に自分を表現する場となりました。



また、イーゼルを使ったアクティビティでは、家族や身の回りのもの、好きな食べ物など、身近なものを想像力豊かに描いて、創造性を発揮しました。

Provocation(導入)の中で、特に子どもたちが興奮したのは、小さなステージとその前に並んだ椅子を見つけた瞬間です。衣装を見つけるとすぐに仮装を始め、なりきり遊びに夢中になりました。おもちゃのマイクやギターを手に取り、音楽に合わせて歌ったり踊ったりしながら、さまざまな感情や表情を生き生きと表現していました。



K1の皆さん、大変よくできました！

Claire Yoneyama
K1A Teacher



かかしコンクール結果

サマープログラムセッション2に参加していたG3～G5の生徒達で、清澄白河祭の第27回かかしコンクールに2つの作品を応募し、その2作品とも銅賞をもらいました。生徒達は、深川資料館通り商店街で購入した文房具のセットを景品として受け取りました。



Miyako Takayama
PYP Japanese Teacher



Masayuki (G5A) , Ryosuke (G5B)



Ran (G3B) , Airi (G3A) , Yui (G3B) , Yurina (G4B)

K2 Exploring the World



'Where we are in place and time' ユニット

K2クラスの子どもたちはこのユニットを通して、さまざまな文化の違いや共通点を学びながら、寛容な心を育んでいます。たくさんの面白い活動を通して、子どもたちが色々な国や大陸について学べるよう工夫しています。活動の一部には、以下のようなものがあります。

- 自分たちで料理をし、食べる
- 伝統的な洋服を着てみる
- おもちゃを作り、ゲームをする
- 違う大陸についての絵本を読む

このユニットは多くの保護者の方々のご協力があってこそ、成し遂げられました。調理実習にお手伝いに来てくださったり、異なる国について発表をしてくださったりと、感謝してもしきれないほどです。

こちらの写真は、K2クラスの子どもたちがインドの有名なフェスティバルの一つであるHoliを、みんなで一緒に幼稚園の園庭で楽しんでいる様子です。とても楽しく走り回りながら、色とりどりの粉をみんなで投げ合いました。Holiについての絵本を読んだり、カラフルな粉を用意してくださったMrs. Royに、心より感謝いたします。



Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator/K2A Teacher



K3における科学的方法

科学的方法は、私たちの世界について学ぶ上で欠かせないプロセスです。KISTでは、この科学的方法を用いた探究活動をK1から始めています。



幼い時期から触れることで、批判的思考力、学びへの好奇心、そして周りの世界を理解する力を育むことができます。科学的方法は、その後も各学年で繰り返し確認しながら学びを深めていきます。

「How the world works (世界はどのような仕組みになっているのか)」の単元を始めるにあたり、K3の生徒たちは『Ada Twist, Scientist(せかいはふしぎでできている!)』という本を読みました。この本を通して、生徒たちは幼稚園児でも科学者になれること、科学者であることを学びました！その後、「科学的」スキルに焦点を当てました。これには、並べ替え、比較、観察、予測、組み立て、感覚の活用といった、探索や調査に欠かせないスキルが含まれています。



最初の実験はクラス全体で行いました。教師の指導のもと、疑問を定め、予測を立て、実験を実施し、観察し、その結果をもとに結論をまとめました。生徒たちは、それぞれのステップを文章で記録する方法も学びました。その後、生徒たちはセカンダリーの化学実験室を訪れ、セカンダリーの生徒の指導のもと、さまざまなエキサイティングな実験を行いました。この中では、予測を立てたり観察したりして、結果を分析して結論を出す経験を積みました。



今後は、さらに多くの実験を通じて、科学的方法を用いたライティングを練習する予定です。また、冬休み明けには、光を使った実験に取り組む予定です。この活動では、さまざまな物質の透明度や不透明度を調べるほか、学んだことをもとに影絵を作るプロジェクトも計画しています。こうした活動を通じて、科学的方法をさらに深く学び直す機会を提供していきます。

Ioanna Tzedakis
K3A Teacher



Japanese Culture Club



「Japanese Culture Club」は、G1・G2を対象とし、日本の伝統的な遊びを通して、日本の文化に触れるクラブです。夏の風物詩「ヨーヨーすくい」や、ハロウィンのお菓子づくり、昔懐かしい「だるま落とし」・「すごろく」・「凧あげ」などを行いました。



活動を通して、どうやったらうまくできるのか、どうやったらうまく作ることができるのかなど、子どもたちが試行錯誤しながら、それぞれの活動を楽しみながら取り組みました。

Kanako Mizuma
PYP Japanese Teacher



上段の写真: Hiroyuki (G2B)、Yuria (G2A)、Joji (G1B)
中段の写真: Junyu (G2B)、Yeming (G2A)、Riona (G2A)
下段の写真: Mayuri (G1A)、Ryo (G1B)、Qinghai (G2B)



探究ユニットとの連携を通じた言語学習

Grade 3の日本語基礎クラスでは、通常、文法学習のために『ひろこさんの日本語』を主要教材として使用しています。しかし、秋休み明けから新しいアプローチとして、Grade 3の探究ユニット、「私たち自身(Who we are)」のトピック「体のしくみ(The Body Systems)」に授業内容を連動させた指導を導入しました。

このアプローチは順調に進んでおり、生徒たちは非常に意欲的に取り組んでいます。ホームルームの授業で学んだ内容を基に、生徒たちは日本語で健康的な習慣や選択について話し合うといった、さまざまなシチュエーションでのロールプレイを行っています。この活動は、新しい言語で自分を表現するコミュニケーターになることを促し、慣れない状況に挑戦するリスクテイクとしての姿勢を育てています。

このユニットの最終目標は、日本語で自信を持ってレストランで健康的な食べ物を注文できるようになることです。そのために、語彙や文法、実践的なコミュニケーションスキルを組み合わせることで学んでいます。この過程を通じて、生徒たちはシンカーや探究者として成長し、さまざまな教科間でのつながりを見出し、実社会に応用できる知識を身につけています。

この新しいアプローチが生徒たちの言語学習と意欲をどのように支えていくのか、今後とも楽しみです！

Kana Furnival
PYP Japanese Teacher



秋のフードドライブ

あなたの寄付金はどこへ？

秋休み前に行ったフードドライブで、ESRCのメンバーを中心に、多くの方から食料が集まりました。これらの寄付は、セカンドハーベストというフードバンク団体に届けられました。(Mr. Archerが運んでくださいました！)

セカンドハーベストは、企業や個人から寄せられる多くの食料を集め、必要としている人々に届ける活動をしています。集められた食品は、賞味期限や箱の状態をボランティアが一つひとつ丁寧にチェックします。すべての食品が安全であることを確認した後、整理された箱に詰められ、テーブルに並べられます。コロナ禍には、多くの方が仕事を失い、毎週フードバンクに頼らざるを得ない状況が続きました。

フードバンクは、事前に登録し承認されると利用することができます。来店した際には、受け取れる最大量の食品を受け取ることができ、すべて無料です。2ヶ月の間に最大5回まで利用することが可能です。スナック菓子、缶詰、パスタに加え、数に限りはありますが新鮮な果物、パン、野菜なども提供されています。

今回、食品を寄付くださった皆様、本当にありがとうございました。セカンドハーベストについてもっと知りたい方や、ボランティアに興味がある方は、ぜひウェブサイトをご覧になるか、Mr. Archerに直接お話しください。



Issa (G5B), ESRC President
Tamana (G4A) ESRC Secretary



G2のハッピーホリデー

冬が近づくにつれ、Grade 2のクラスは、私たちのコミュニティにおける祝祭の豊かな多様性を探求することをとても楽しみにしています！クリスマス、ハヌカ、ディワリ、お正月、またはその他の行事など、各家庭のホリデーの伝統を紹介する写真を募集しました。



Axel Norwood
G2A Teacher

これらの写真は、生徒たちにとって、特別な季節を祝う人々の様々な方法について学び、感謝する素晴らしい機会となりました。伝統を受け入れ、共有することで、私たちは誰に対してもオープンマインドで思いやりのある環境を育むことができます。



KIPSニュース

From the P0/P1 classroom...



今年度が始まり2ヶ月が経ちますが、P1クラスの子どもたちは毎日楽しみながらレッスンへ参加し、遊びの時間を過ごしています。また、言葉も増えてきて自分の気持ちをYes、Noで伝えられるようになり、日々子どもたちが成長する姿を近くから一緒に見守る事ができ、嬉しく思います。

Japaneseのレッスンでは、月に1度「食育」の時間を設け、食材がどのようにして出来ていくのかを紙芝居で見て、においを嗅いだり、触れたり、味見をしました。9月は「バナナ」、10月は「豆乳とにがりを使って豆腐」を作りました。バナナは緑色から熟した黄色いバナナになるまでを観察をした後P2 Scienceクラスでバナナカップケーキを作りました。豆腐作りは豆乳とにがりを混ぜるのを手伝ってもらい電子レンジで作ったの暖かい豆腐を味見しました。普段School Lunchで豆腐をあまり食べない子どもも、自分たちが手伝って作った豆腐は美味しかったようで「美味しい、もっと」とたくさんおかわりをする様子が見られました。これからも食育の時間を通して、子どもたちがたくさんの食材に触れ、楽しんで参加する事が出来る時間にしていければと思います。



Hitomi Hirakawa
P1 Class Teacher/P1, P2 Japanese Teacher



From the P2 classroom...

KIPSでは毎年、子どもたちが楽しめるハロウィン・イベントを開催しています。今年初めて、保護者の方々にもご参加いただきました。

午前中、子どもたちは思い思いの仮装をして、さまざまなハロウィンゲームに参加しました。サークルタイムでは、自分のコスチュームをクラスみんなに紹介する機会があり、人前で話す練習にもなりました。最初は恥ずかしがる子もいましたが、最後には笑顔で自分のコスチュームを紹介していました。その後、近所のお店のご協力のもと、KIPS周辺でトリック・オア・トリートを楽しみました。保護者の方々には遠くから見守り、その後は公園で一緒にゲームを楽しみました。中には、すべての子どもたちにお菓子を用意してくださった保護者もあり、袋がどんどん重くなっていく中で、子どもたちは笑顔いっぱい歩き回っていました。その光景はとても心温まるものでした。

イベントは大成功でした。このようなイベントは、子どもたちの想像力を刺激し、自尊心を高める良い機会だと感じます。今回のイベントに協力して下さった近所のお店のひとつに、前田楽器店があります。長年、KIPSの子どもたちが近くを散歩するとき、オーナーの方はいつも温かい笑顔で迎えてくださいます。今年も一人ひとりにサプライズ・プレゼントを用意し、「Here you are」と英語で話しかけてくださる姿が印象的でした。11月で前田楽器店が閉店してしまうのはとても寂しいことですが、最後にこのイベントで一緒に特別な思い出を作ることができたことに、心から感謝しています。



Ma. Cielito Bautista
P2 Class/Art Teacher



LSPニュース



Lower Secondaryで優しさと思いやりを育む

今セメスター、Lower Secondary Programme (LSP) のアドバイザーセッションでは、生徒たちが日々の交流の中でどのように優しさと思いやりを体現できるかに焦点を当てました。Mrs. Donald-Godfreyは、感情的知性と言葉の力に関するテーマで興味深い授業を行いました。これらの授業は、生徒たちが共感を育み、自分の行動が他者にどのように影響をもたらすかを理解することを促します。優しさと思いやりとは、友好的で思慮深く、助けを必要とする人々をサポートすることです。親切にすることで、人々が支えられ、大切にされていると感じられるようにすることです。



波及効果のような優しさと思いやり

一人の生徒が親切心を示すと、それは他の生徒に影響し、優しさの連鎖が広がっていきます。助けを差し伸べる、思いやりのある言葉をかける、共感を示すなどの単純な行動が、外へと広がり、それらの強い連鎖反応が学校コミュニティを強化していきます。LSPコーディネーターとして、私は親切心の模範となる生徒を表彰したいと考えました。先生たちに優しさと思いやりを体現した生徒を推薦してもらいました。

推薦された生徒は、学校の集会で表彰されました。学校全体に優しさと思いやりを広め、表彰された皆さん、おめでとうございます！

推薦された生徒は、学校の集会で表彰されました。学校全体に優しさと思いやりを広め、表彰された皆さん、おめでとうございます！



G7: Yuto, Koh, Anaya, Ishika

Grade 6	Grade 7	Grade 8
Sara H.	Mingxuan	Abigail
Aki	Ananya	Aarav
Ayaka	Koh	Kurumi
Mirei	Yuto	Harsh
Azuki	Ishika	Tae Sung
Amano	Mimi	Yuki
Sho	Yashasvi	Sungwoo
Sara K.	Abhinav	Luca
Anna	Yuzuna	Toshani
Lia	Alessio	Jun
Wakana	Akiko	Ryan
Jessica	Ashlesha	Shlok
	Nozomi	
	Hemaswaroop	
	Amy	



G7: Ashlesha, Akiko, Alessio, Yuzuna, Abhinav, Yashasvi, Mimi



G8: Shlok, Ryan, Jun, Toshani, Luca, Sungwoo, Yuki, Tae Sung

先を見据えて: 正直で公正であること

次回のアドバイザーでは、正直で公正な人になる重要性に焦点を当てます。公正であるとは、正しいことを守り続けることです。公正な人は、ルールを守り、真実を語り、他者を尊重し、困難な時でもそれを貫きます。セメスター試験が近づく中、正直であることは特に重要になります。良い成績を取るプレッシャーや誠実な道では無い近道を取る誘惑、難しい問題に対してのフラストレーションなど、試験は様々なチャレンジに直面する時です。公正であるということは、困難な時でも正直であり、自己規律を保つということです。

試験における誠実さとは、ルールを守り、責任を持って準備し、真に学んだことを示すことです。プレッシャーがかかると、近道を取ったり言い訳をしたくなったりしますが、真の成長は忍耐から生まれます。生徒が試験で正当な努力をし、誠実に取り組むことで、成長力と誇りを築くことができます。

試験は、単に学業成績だけでなく、自己規律、集中力、責任感といった生活スキルを身につける機会でもあります。ルールを守り、誠実に努力することで、生徒は自分自身、仲間、そしてコミュニティに対する敬意を示します。誠実と忍耐力を培った習慣は、学校を超えて成功への基盤を築きます。

次のページに続く

前ページの続き

試験中に正直で公正であるとは:

- たとえ不便であっても試験規定を守ること。
- 最後の詰め込みやカンニングを避け、計画的に準備を進めること。
- 困難な問題に直面しても、諦めずに冷静に取り組むこと。

これらの価値観は、学業の成功をもたらすだけでなく、誠実さと力を持って挑戦を乗り越えることができる個人を育てる手助けになります。

セメスター試験で自信を持って挑む方法

試験は挑戦的に感じるがありますが、適切な方法で準備をすれば、自信を持って取り組むことができます。試験期間中、冷静で健康的な習慣を保ちながら準備を進めるための実用的なコツをいくつか紹介します。

実用的な勉強のコツ

勉強スケジュールを立てる: 現実的な時間割を作成し、すべての科目に十分な時間を確保し、特に難しいトピックに多くの時間を割り当てる。

能動的な復習技術を使用する: ノートを取る、練習問題を解く、フラッシュカードを作成することで、情報を記憶する。

過去の問題を復習する: 過去の試験問題を使って、試験形式に慣れ、改善が必要な部分を見つける。

整理整頓を心がける: 勉強資料、ノート、教科書を一か所にまとめ、探す時間をなくす。

重要なトピックに集中する: セメスター中に学んだ主要なトピックスを復習し、先生から指示された分野に優先順位をつける。

質問をする: 不明点があれば、試験前に先生やクラスメートに聞いて確認する。生徒がサポートを受けられるアカデミック・ヘルプ・クラブも利用できます。

落ち着いて健康でいるためのコツ

十分な睡眠をとる: 脳が集中し、情報処理をしやすくするために、毎晩8~9時間の睡眠を確保する。

バランスの取れた食事をする: 果物、野菜、タンパク質を含む食事でエネルギーを保ち、集中力を維持する。

休憩を取る: 25~50分の勉強セッションごとに短い休憩を取ることで、リフレッシュし、過労を避ける。

体を動かす: ウォーキングやストレッチなどの軽い運動はストレスを減らし、集中力を高める。

マインドフルネスを実践する: 深呼吸やリラクゼーション技法を使って、特に試験前などの緊張を和らげる。

スクリーンタイムを制限する: 勉強中や寝る前にソーシャルメディアやゲームに気を取られないようにする。

ポジティブな気持ちを持つ: これまで学んできたことに集中し、最善を尽くすことが最も大切だと自分に言い聞かせる。

私たちはこれらの価値観を学校コミュニティの中で育てていきたいと思っています。生徒たちが優しく思いやりのある、正直で公正な人間に成長できるように今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。セメスター試験を迎えるすべての生徒に幸運を祈ります。

Hannah Cowie
LSP Coordinator



KPASS MSDドラマフェスティバル

今年の11月、KISTのG6からG8の生徒たちは、国立オリンピック青少年記念センターで開催されたKPASS MSDドラマフェスティバルに参加することができました。毎年恒例となっているこのイベントでは、他の8校の生徒と一緒に、演劇について学び、共通のテーマをもとに新しい演劇作品を創作します。それぞれのグループは基本的に、同じコンセプトで始まりますが、朝からグループに分かれ、各グループ異なる方向に進み、トピックを各々の方法で探求します。



今年は、各グループにPieter Brugelの有名な絵画「ネーデルラントの諺」の一部が与えられ、何らかの慣用句やフレーズが関連付けられていました。1日が終了した後、全員が同じ大きな絵を元に作業していたことが明かされ、その強い共通のつながりに気づいたときには驚きと拍手が沸き起こりました。



このような興味深く創造的に刺激的なイベントに参加できるのは、生徒たちが新しい経験に挑戦できるようサポートしてくれる保護者の方々のおかげです。これからもこれらの機会を楽しんでいけることを願っています！

Charles Owen
ELS Instructor (Secondary)



IGCSEニュース



1学期が終わりに近づきましたので、お子さんとその成果や今後の成長について話し合うことをお勧めします。1学期は特筆すべき様々な経験があり、これを皆様と共有したいと思います。また、新しい年に向けて、IGCSEの観点から何を期待すべきかもお伝えします。

まず、G9キャンプとKIST模擬国連カンファレンスについての生徒の記事を読んでください。前号の「The Comet」以降、G9の生徒たちは鎌倉と江ノ島を探検するために湘南に出かけました。また、G9とG10の生徒たちが2019年以降初めて開催されたMUN会議の組織にも関わり、11校から150名以上の代表者がKISTを訪れました。これらのイベントは、それぞれ思い出に残るユニークな体験となり、その詳細は後出の生徒の記事に記されています。

第二に、学習時間割とマイクロソフトのTo Doタスクを通して、お子さんが整理整頓を心がけることをお勧めしたいと思います。願わくは、お子さんが自分の学業や課外活動に最適な学習時間割を作成し、時間をよりよく管理できるようになればと思います。G10は、これらのツールを使って前年度のトピックの復習に集中し、期末試験に備えましょう。G9の生徒にとっては、2学期に入り、予定されている教科の復習時間をより多く使うことができるようになります。さらに、保護者の方にはSchoologyにログインし、お子さんの評価カレンダーと個々のクラスをご覧になることをお勧めします。そうすることで、生徒の学習内容について質問することができ、生徒の学習進捗をよりよく管理することができます。

最後に、G10生は次号の「The Comet」発行までに2つの重要な日があります。2月24日、学校はDPオプションズ・デイを開催し、保護者と生徒がガイダンスを受けたり、科目選択の可能性について質問したりすることができます。また、3月31日～4月10日にはG10のIGCSE模擬試験が予定されています。この模擬試験は、生徒が各教科のペーパー1とペーパー2を受験し、各教科の理解度を証明する機会となります。

今後ともご支援、ご協力をよろしくお願ひいたします。また、IGCSEに関するご質問がありましたら、お気軽にご連絡ください。

Keith Erickson
IGCSE Coordinator



G12経営学ゲストスピーカー

金融リテラシーについて学ぶ

先日、G12 Business Managementクラスは、Mr. Kingsley KobayashiとMrs. Blanka Kobayashiによるプレゼンテーションを通して、ファイナンシャル・リテラシーの重要性について学ぶ素晴らしい機会を得ました。お二人は「The Beginner's Guide to Financial Freedom」という本の著者であり、若い世代に金融リテラシーの重要性を伝える活動をしています。ナイジェリアから日本に移住した連続起業家で、投資家でもあるMr. Kobayashiのユニークな経験は、私たちに非常に洞察に富む教訓を教えてくださいました。

プレゼンテーションから得た重要なポイントは、ファイナンシャル・リテラシーが私たちの年代の若者にとっていかに重要であるかということです。Mr. KobayashiとMrs. Kobayashiは、投資と予算に関して早く始めることの意義について語ってくれました。私たちはどのようにお金を稼ぐかを意識し、稼いだお金の価値を最大化する方法について学びました。予算管理は、自分の支出パターンをよく観察し、いくら使っていくら貯めるかという目標を立てることから始まります。

理想的には、稼いだお金の10%を投資口座に貯金し、銀行で複利の形でお金を増やすことが重要です。

生徒である私たちは仕事をしていませんが、収入源を得るために趣味を収益化することはいつでもできます。ベビーシッター、家庭教師、Vlog、フリーランスなど、簡単な仕事であれば簡単に収入を得ることができ、生徒の起業家精神を刺激することもできます。また、講義で提起されたもうひとつの重要なポイントは、デューデリジェンスという概念であります。デューデリジェンスとは、ビジネスや財務上の意思決定について、調査に基づいた分析を行うことです。重要な財務に関する決定は、損失を避けるためによく考え、検討することが大切です。

来年大学に進学するG12の生徒にとって、この講義は財務管理を考える上で非常に関連があり有益な情報でした。金銭管理は正しく行えば、経済的自由への近道になることを学びました！

Aadya (G12B)



生徒アンバサダー



最近、KISTで開催された2つのイベントで、複数のセカンダリーの生徒がアンバサダーとして学校を代表する機会がありました。

KIST説明会

最初のイベントは10月19日(土)に行われた毎年恒例の説明会です。この説明会は、次年度の入学を希望される保護者の方々を対象に、本校についてより詳しく知っていただくことを目的としています。イベントは午前の英語セッションと午後の日本語セッションに分かれており、どちらのセッションにも6名のセカンダリーの生徒が参加し、保護者の方々とお話し、KISTでの生活についての質問などに答えました。また、午後のセッションでは、日本語を話せない教師をサポートし、教室でのプレゼンテーションを日本語に翻訳する役割も担いました。



Ann (G8B)



Ryan (G8B)



Rishim (G9B)



Alice (G11B)



Satori (G11B)



Mamiko (G11B)

関東インターナショナルスクール・アドミッションネットワーク

次のイベントは11月20日(水)に開催された関東のインターナショナルスクール アドミッションネットワークの年次会議でした。このネットワークは、インターナショナルスクールのアドミッションスタッフが非公式な場で集まり、情報や経験を共有し、アドミッションに関する事柄について話し合う機会を提供します。参加校が持ち回りで毎年開催しており、KISTが主催するのは2018年以来でした。今年度は19校から32名のスタッフが参加しました。会議の後、セカンダリースクールの生徒6名がエレメンタリースクールとセカンダリースクールのガイドツアーを行いました。



Mamiko (G11B)、
Alice (G11B)



Edward (G11A)、
Joanne (G10A)



Feiru (G12B)、
Fumie (G12A)

イベント終了後、多くの来場者からツアーに関する熱いフィードバックをいただきました。以下にその一部を紹介します。

- 「セカンダリースクール生徒のスクールツアーは楽しく、ためになりました。」
- 「新しい校舎を見ることができ、ツアーガイドも素晴らしかったです！」
- 「貴校の生徒さんたちは、新しい施設を上手に案内してくれました。」
- 「貴校の生徒さんたちは、キャンパスを案内するのにとても良い仕事をしてくれました。」
- 「ツアーを案内してくれた生徒たちは素晴らしく、また新しいキャンパスを見ることができて素敵でした。」
- 「新しい校舎を見ることができ、ツアーガイドも素晴らしい仕事をしてくれました。」
- 「今まで行ったツアーの中でも最高のものでした。」



生徒アンバサダーの皆さんの熱意とプロフェッショナルな姿勢に感謝します。アンバサダーの皆さんは、私たちがKISTの生徒に期待している資質をすべて体現し、学校への誇りを見事に示してくれました。改めて感謝申し上げます。

Craig Larsen
Director of Admissions and Personnel

KPASSボーカル & ピアノフェスティバル

11月9日(土)、G7からG11までの生徒がKISTを代表して毎年恒例のKPASSボーカル & ピアノフェスティバルに参加しました。少し緊張しながらも、どの生徒も素晴らしい演奏を披露し、審査員から好意的な評価と賞をいただきました。これらの素晴らしい演奏を今後の学校行事や集会で紹介したいと思います。参加さ

れたAshlesha (G7B)、Kanae (G7C)、Kurumi (G8A)、Ankita (G10A)、Kanji (G10A)、Joanne (G10A)、Mirea (G10A)、Ai (G11A)、Edward (G11A)、Flora (G11A)、Jiani (G11A)、Ulala (G11B)、Jack (G11A)おめでとうございます！



Robert Collins
Secondary Music Teacher



KISTでの模擬国連カンファレンス

KISTは11月9日(土)に2019年以来初めての模擬国連(Model United Nations)カンファレンスを開催しました。私たちのMUNクラブは、11校から150名以上の代表者を迎え、中学生に対して、決議案の作成や討論の基礎を紹介することを目的としたイベントを実施しました。

KISTが主導した5つの委員会は、以下のテーマについて生徒たちが議論を行いました: 手頃な価格でクリーンエネルギーへのアクセス改善、自律型兵器の使用と倫理、インターネット上のプライバシーと個人データの取り扱い、「頭脳流出」の世界的な影響への対応、持続可能な農業慣行の改善と食料廃棄物削減。また、オランダ大使館のMs. Sonia Bronfmanがゲストスピーカーとして招かれ、外交官としての経験や日本での役割について語っていただきました。

イベントの運営に携わった生徒リーダーおよび委員長に特別な感謝を申し上げ、来年も再度このイベントを開催できることを楽しみにしています。

事務局長: **Jessica** (G11A)、**Lander** (G11B)

委員長: **Yixuan** (G11A)、**Arnav** (G11B)、**Howard** (G11B)、**Jyoti** (G11B)、**Ankita** (G10A)、**Joanne** (G10A)、**Kanji** (G10A)、**Youn Ho** (G10A)、**Kanade** (G10B)、**Xintong** (G9B)

Keith Erickson

IGCSE Coordinator



Lander, Ms. Bronfman(ゲストスピーカー)、Jessica



委員長: Kanade, Joanne, Kanji



開会式で代表団を歓迎するJessicaとLander

石川県被災地支援タオル寄付活動

2024年9月にG7AのYutoは石川県の被災地に、家を掃除するためのタオルを集められないかと学校に相談しました。

YutoはKISTのサービスグループ、Konnect(旧CTH)と協力し、彼の寄付活動は大成功をおさめました。大きな箱いっぱいのタオルを13箱分も集め、それらはNPO法人カタリバを通じて石川県に送られました。

この機会を作ってくれたYutoとご家族、この活動を支援してくださったKISTコミュニティ、そして梱包や28,000円の送料を負担してくださったKonnectに感謝します。

以下はYutoからのコメントです。



災害で被害を受けた地域のために、何ができるかを考えたことはありますか。

SNSで被災地への支援を広める投稿を見て、私はタオルを集め、水害などが起きている能登地方に送ることにしました。KISTの皆さんの寄付の協力で、13箱分の段ボールにタオルを集めることができました。私たちは、Daily Noticesやポスターを使用してこの活動を宣伝し、多くの試行錯誤を経てこの活動を成功させることができました。



English Departmentの作家訪問



English Departmentの定番は、「Orchards」という小説です。私たちはその素晴らしい筆者のホリー・トンプソンさん(Holly Thompson)をKISTに迎えることをいつも楽しみにしています！生徒たちは彼女の到着を心待ちにしており、数週間にわたり彼女の登場人物の



世界に没頭していたため、その期待感は大変高かったです。いつものように、彼女は温かく親しみやすく、リラックスした態度と親しみやすい笑顔で生徒たちをすぐに和ませてくれました。

講演は、今まで生徒が頭の中でしか想像できない作家という職業の生活を垣間見ることから始まりました。彼女は、執筆時の日常のルーチンや、みかん農場について書くために必要な綿密な調査について率直に語り、小説の草稿を何度も書く必要があることに私たちは衝撃を受けました！

著者は、執筆が情熱と規律の混合であり、物語が常にスムーズに流れるわけではないことを説明しました。時には、登場人物が独自の人生を歩んでいるように見え、彼女が最初に意図していなかった方向に筋書きが導かれることもあると述べました。経験豊富な作家にとっても、プロセスは予測不可能で驚きに満ちているという考え方に生徒たちは魅了されました。彼女は、忍耐の重要性を強調し、初稿は決して完璧ではなく、本当の作業は修正の際に行われることを話してくれました。

講演の後、著者は生徒たちとクリエイティブ・ライティングについてのワークショップを行いました。Hollyの独創的なアイデアの引き出し方に触発されながら、生徒たちは一人で、あるいはパートナーと一緒にアイデアを紙に書き出し、授業は興奮に包まれました。



再び私たちのもとに訪れてくれたHollyに感謝し、来年またお会いできるのを楽しみにしています！

Isobel Duncan
Subject Area
Coordinator—
English

When your heart speaks two languages
Half of you feels incomplete.
But, what about my other half?
You have different personalities.
It's like you have two minds, two instincts, two everything.
You don't know which one to feel, what time to express them
when you can be authentically you.
What should I do? What should I think?
Or even trying to fit in.
Who do I like? Who do I dislike?
I don't even know which personality fits me.
Who is me?

—Isabella (G7A)

The smallest gestures make a difference.
I was encountering a kid
Who was flying a kite in the breeze.
The kite was hovering beyond space.
I had to help.
I spoke in English.
He spoke in Japanese.
I tried to hide my frowning face – blame it on the wind.
I began to use gestures to communicate
And I sail the kite or
Help other kids.
My frown changed to a smile
Brought by the realization that
The biggest or
Smallest gestures have the ability
To make the world a
Better place.

—Takafumi (G7A)

G9湘南キャンプ

9月30日と10月1日、G9の生徒たちはチームワークを重視したIGCSEのカリキュラムについて学ぶため、湘南への1泊旅行に出かけました。初日は「ズーラシア」と「フォレストアドベンチャー」を訪れ、2日目は鎌倉と江ノ島を観光しました。

Aiwei (G9A) and Carys (G9B)



G9キャンプの写真撮影

1日目

朝、G9の生徒たちは学校に集まり、これから始まる2日間の冒険に胸を躍らせていました。出席を取り、最初の指示を受けた後、別々のバスに乗って出発しました。最初の目的地は「ズーラシア」という動物園で、さまざまな動物を見たり、クラスメートと写真を撮ったりしました。画面や教科書の中でしか見ることのない様々な動物たちが、目の前で生き生きと動いていました。ライオンの唸り声、レッサーパンダのかわいらしさ、サルの鳴き声など、忘れられない貴重な体験でした。昼食後、私たちはフォレストアドベンチャーパークに向かい、障害物コースを進みながら自然環境を楽しみました。一番難しい障害物コースから挑戦する人もいれば、簡単なコースから一歩ずつ進む人もいました。樹上を高速で横切り、木々の湿った香りを嗅ぎ、耳元で轟く風や頬をなでる風を感じるのには、次元の違う体験でした。

私たちは午後遅くに豪華なホテルに到着しました。夜はおいしい食事から始まりました。その後、プールで泳いでリフレッシュする生徒もいれば、荷ほどきをしてくつろぐ生徒もいました。夜は、目標設定のエクササイズと殺人ミステリーゲームを行いました。

2日目

くつり寝した後、私たちは早起きして再び出発しました。グループに分かれ、それぞれの目的地に向かいました。あるグループは大仏や近くの神社を訪れ、おみくじを引いて幸運を祈りました。別のグループは長谷寺を探検し、江ノ島灯台に登って海の景色を眺めて楽しみました。いくつかのグループは家族や友人にお土産を買っていました。昼食は、各自が選んだレストランで食事をしました。その後、海辺の場所を訪れ、リラックスしたり、途中の丘を登ったり、風で髪が顔にかかりながらも楽しい時間を過ごしました。

1日の予定が終わると、私たちはバスに乗り込み、あっという間に過ぎてしまった日々と、つかの間の幸せな時間をバスの中で振り返りました。バスの乗車時間はとても短く、気づいたら夢見心地から現実に戻り、学校に戻っていました。



優れたリーダーとは？

G12のBusiness Managementの授業の一環として、KISTの校長であるDr. Kevin Yoshiharaにお越しいただきました。

Dr. Yoshiharaはクラス来てくださり、生徒たちにリーダーの役割と優れたリーダーとは何かについてお話してくださいました。以下が、Dr. Yoshiharaに伺った質問とそれに対する回答です。



Edwin Gombya
Subject Area Coordinator—I&S

Feiru: 学校長とエレメンタリースクールの校長という2つの役割の責任や職務をどのように管理していますか？

Dr. Yoshihara: 両方の仕事をうまくこなすために、私はMr. RoseやMr. Cowe、そして教科コーディネーターに業務を任せています。重大な問題や課題があれば、彼らが私に尋ねます。権限委譲は長期的な投資です。私ができることを行う人たちを育成し、昇進させることが役割です。

Genta: KISTの核心的な使命とビジョンを学校で効果的に伝え、共有するためにどのようにしていますか？

Dr. Yoshihara: 私は、親や家族との個人的なつながりを通じて、定期的なイベントを通じてコミュニケーションを取り、親しみを持ってもらうようにしています。また、個人的にも学校の使命を体現しています。

Aadya: 自分の管理スタイルは科学的な経営スタイルと直感的な経営スタイルのどちらだとお考えですか？

Dr. Yoshihara: 私はデータ駆動型のアプローチを使用しているので、科学的です。ただし、私は人と一緒に働くのが好きなので、ある程度は直感的でもあります。人と仕事をするとき、言っていることが心からのものであることを相手に伝える必要があります。

Tomoyoshi: 他の職種にはないような、教師のマネジメン

ト特有のリーダーシップの難しさはありますか？



Dr. Yoshihara: 特に教師にはそれぞれの特性があるので、どの教師にも同じように接することはできません。教育は、その特性がサービスに大きく影響する職業です。また、エレメンタリーの教師とセカンダリーの教師では求められるものも異なります。

Isseh: あなたのリーダーシップスタイルは年々変わりましたか？

Dr. Yoshihara: ここ数年は仕事を任せることが増えました。最初はより多くの作業が発生しますが、それは後のためになります。私はより率直になり、時には「ありのままを伝える」ようになりました。すべての会話を注意深く見守る時間とエネルギーを減らし、より直接的に伝えることを学びました。

Taiyo: 現在のポジションで、何があなたをやる気をなくさせ、どのようにそれを克服していますか？

Dr. Yoshihara: 教師や保護者がカリキュラムを理解するのが難しい時や変化に抵抗する時です。特に教師が抵抗する場合は、生徒や教育に悪影響を与えることがあります。

Anika: セカンダリースクールとエレメンタリースクールでリーダーシップスタイルは異なりますか？

Dr. Yoshihara: Mr. CoweとMr. Roseはセカンダリーの教師に内発的な動機を提供しています。エレメンタリーでは、私は称賛とサポートを提供します。ポジティブな称賛と強化は非常に重要です。

Sungbeen: あなたは理事会と対立したことがありますか？

Dr. Yoshihara: 意見の相違はありますが、理事会が存在する理由は、意見の相違を含めたすべての意見を議論し、それを決定に反映させることです。



サイバースペースのデジタルの深淵

自立したティーンエイジャーであっても、その時期の浮き沈みの波を乗り越えるためにあなたの指導が必要です。



セカンダリースクールに進むと、子供たちが思いやりがあり、賢く、意欲と野心を持ったバランスの取れた個人に成長したことに、大人として、ほっと一息つくのは容易だと思えます。子どもが習得する特定の趣味、自己整理スキルや特定の学校科目の高い習熟度に対する自信と高い能力のレベルを、子どもの完全なる成熟のサインと誤解するのにもさらに簡単です。しかし、成長する自立心が高まっているにもかかわらず、子どもたちは依然としてデジタルの世界をナビゲートするための指導を必要としています。嵐の中の流木のように、デジタルの海は荒れ狂い、波乱に満ちていて、容赦がないことがあります。最も自立したティーンエイジャーでさえ、この波を乗り越えるためにあなたの指導が必要です。以下は、ご家庭でお子さんのオンライン使用をサポートするためのヒントをいくつかご紹介します。

1 初めから明確な境界線を設定する

スクリーンタイムの使用時間や許可するウェブサイトに関して、何が期待されているかについて正直かつ公平にコミュニケーションを取りましょう。さらに、オンラインでの行動は対面でのコミュニケーションと異なるべきではないことを示し、説明します。オンラインでも適切な言葉遣いに気をつけ、口調に気を配り、投稿する前に考え、境界線を尊重することについて話し合しましょう。

お子さんの行動を定期的に見守り、あなたが設定したルールに従った場合にはその行動を褒めましょう。ただし、ルールが守られない場合の対応の準備もしておいてください。

2 対策

子どもが望ましくない内容にさらされるのを減らすための予防策を講じます。プライバシー設定を確認し、あなたが適切だと感じる情報のみを共有（および受け取る）できるようにしましょう。

さらに、インターネットの制限を設定したり、特定のコンテンツを制限したり、リアルタイムで子どもの活動を監視することができるさまざまな親のコントロールアプリの使用を検討してください。これにより、特に学業に集中が必要な時期に、子どもが勉強の先延ばしを避ける助けになるかもしれません。

お子さんが成長するにつれて、これらの制限を定期的に見直し、お子さんの意見をしっかりと聞き、サポートされていると感じられる環境を育むことが重要です。

3 正直に話せる関係を維持する

お子さんがあなたから批判の言葉を受けずにオンラインの体験を共有できる環境を確立するよう努めましょう。親しみやすいということは、お子さんがあなたに

心配事を打ち明けたり、必要に応じてサポートやアドバイスを求めたりすることを意味します。

4 批判的思考を促す

お子さんがオンラインで出会った情報に挑戦するよう促しましょう。質問をすることで、不適切なコンテンツから自分を守ることができます。「その投稿は偽りや誤解を招くものである可能性があるか?」「誰がそれを投稿したのか?」「その投稿の目的は何か?」といった質問は良い出発点です。

さらに、子どもが不快または問題を感じたコンテンツについて話し合う時間を設けましょう。問題が発生した場合は、投稿を報告することや、特定のユーザーをブロックするなど、さらなる対応が必要な場合もあります。

以上、子どもが複雑で波乱に満ちたサイバーの海を渡る際にサポートするための4つのヒントを紹介しました。技術の進歩と変化が進む中、私たちにさらなる課題が待ち受けています。時が経つにつれて、子どもたちが堅くなった流木のように、将来の嵐に冷静な自信をもって対処できるよう、装備されたデジタルの海を旅する熟練者となり、美しい風景の一部となることを願うばかりです。

Karen Donald-Godfrey
Student Care Coordinator (Secondary)



ニューフェイス



1月に英語の教師としてセカンダリースクールの指導チームに新しいスタッフ、Lewis Smithが加わります。



「皆さん、こんにちは。私の名前はMr. Smithです。私はオーストラリア人で、南オーストラリア州の出身です。こちらにはたくさんの素晴らしいビーチ、奇妙で素晴らしい生き物、そしてもちろん象徴的なフロッグケーキがあります！人生は冒険の連続だと信じ、皆さんと共にできる次の冒険にワクワクしています。キャンパスで私を見かけたら、気軽に声をかけてください！」



学校コミュニティを代表し、Mr. Smithの新しい役割での成功を祈っています。

Lewis Smith
Secondary English

G11 DPキャンプの思い出



晴 天に恵まれた10月21日の月曜日、私たちG11のDP生徒は、これから数日間、テストがないことを確信し、ほっとした気持ちで目を覚ましました！

それから2泊3日、G11の生徒はDPの旅を更に充実させるために、数え切れないほどの楽しいアクティビティを交えながら学習をしました。例えば、アクティビティの中で大学志願者の役を演じることで、私たちは学業の名声だけでなく、大学が学生に求める他の価値、つまり、情熱的な課外活動の追求者として、効果的な志望理由書を書く力について理解を深めました。TOKでは、知識問題に対する視点を解き明かすために、適切なオブジェクトを選び、プレゼンをしました。

野生動物と戦い、お互いと戦い、そしてその間にあるあらゆるものと戦い乗り越えながら、私たちはこれからの2年間の厳しいが充実した旅路において役立つ、貴重な人生の教訓を学びました。初日は、みんなで協力して夕食のカレーを作りました。キャンプファイヤーの前でマシュマロを焼きながら、Mr. Matsudaがギターで歌を歌ってくれました。草原でバレーボールをしたり、あてもなく走ったり、「安全な空間」で人生について語り合うことで、私たちの絆は深まりました。チームビルディングや、卒業時にしかもらえない不思議なカードをお互いに書いたり、ダンスや寸劇を披露したりと、とても豊かなユーモラスな時間で、建設的な体験の数々は、みんなにとって忘れられない思い出となりました！

個人的に、このキャンプはとても特別なものになりました。素晴らしい仲間たちと貴重な時間を過ごせたことは、DPの旅において間違いなくポジティブな影響を与える経験となり、同じように感じた仲間も多かったのではないかと思います。

Edward (G11A)



高 速道路を下っていくと、ビルが消え始める。バスの窓の角から木々の緑や海の青が広がり、時間が忘れられていく。

通知音や音楽は鳴らず、ティーンエイジャーの会話や、怪しげな音楽のパフォーマンスが響き渡り、目的地に到着した。

人里離れた、しかし美しい三浦エリアは、DPが始まって以来積み重なってきた緊張から解放された、私たちに安堵のひとつときを与えてくれた。

潮風に包まれ、インターネットも締め切りもない。

しかし、キャンプは大変なサバイバルだった。

初日の夜はカレー作りと火おこし。簡単なことだが、私たち都会の子どもたちは苦戦した。しかし、創造力を発揮して「Vegetarian Fires」を発明する者がいた！それでもスキルが足りず、Mr. Matsudaが助けに来てくれた。

次は焚き火とスモア。驚くほど多くの生徒が、もう一つの人生の教訓を学びました：焦げたものは食べてはいけない。

問題解決能力が問われたのは「Human Knot」というゲームだった。手と腕が互いに不快なほど絡み合っていたが、その日、信頼の絆は確実に結ばれた。

創造性が問われたのは、時間制限に追われたチームダンスだった。私たちの中に眠るZac EfronやMichael Jacksonが目覚めた。

本能が試されるキャンプのアクティビティで、私たちG11は、Ms. Alba、Ms. Cho、Mr. Hiro、Mr. Matsudaそして母のように支えてくれたMs. Sakuma無しでは、野生では生き残れないという結論に達した。しかし、この学年は協力と絆を学び、残り的高校生活をミュージカルのように楽しく乗り越えることができるだろう。だって、「We're all in this together...」。

Hana (G11B)



なぜビジュアル・アーツを学ぶのか？—Individuals and Societies



前号の *The Comet* において、ビジュアル・アーツ科はIGSCEとDPコースの一環として、科学、数学、英語のスキルを伸ばすという観点から、ビジュアル・アーツを学ぶことの利点をご紹介しました。Individuals and Societies (I&S)の授業はKISTの生徒がTertiary Courseを選択する際によく選択する科目であるため、今回は次の質問について考えたいと思います。「ビジュアル・アーツの学習はどのようにI&Sの成果を促進するスキルを育むのか？」

アーティストにとって、アートとI&S分野の学問の関係は明確です。アートの価値は、経済的繁栄によって得られる可処分所得によって左右されます。生計を立てるために、

アーティストは競争が激化する市場で生き残るためにビジネスセンスを磨き、発展させる必要があります。未来の歴史的出来事が形作られる中、アーティストはこれらにリアルタイムで反応し、未来の世代のために時代精神を捉えたアートを創造します。アーティストにとって、これらの分野での知識と理解は不可欠ですが、一見するとこの関係は一方通行のように見えます。しかし、KISTのI&S学科によると、そうではないのです。

Jade Bonus
Secondary English/Visual Art Teacher



Economics—Mr. Gombya

Economicsでは、貿易、不平等、需要と供給、国際貿易、ローレンツ曲線、フィリップス曲線など、世界や問題を理解するために様々な経済モデルを使います。生徒は、授業やアセスメントの一環として、これらのモデルを正確に再現する必要があります。そのためには、図が効果的に意味を伝えることができるよう、効果的なビジュアルデザインを合理的に理解することが必要です。ビジュアル・アーツで学ぶ単語やコンセプトをしっかりと理解している生徒は、通常この分野で優れており、この教科の成績の向上にも影響をしています。



Business—Mr. Beaton

Businessでは、マーケティングの7P(製品、場所、プロモーション、価格、人材、プロセス、物的証拠)に焦点を当てたユニットを行います。私たちはビジュアルを使って、製品や販促方法、消費者へのパッケージについて学びます。幅広い層の消費者にアピールするデザインのニュアンスと効果を理解することが、この分野で成果をあげるための鍵となります。



Geography—Ms. Nukariya and Ms. Cowie

Geographyでは、グラフや地図の分析が大部分を占めます。生徒たちは、Geographyに関するデータ源として、グラフや図を適切に解釈する能力が必要となります。地理学者は、気候グラフ、コロプレス地図、ヒストグラム、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなどを作成します。そのため、生徒たちは、解釈しやすいグラフや地図を作成し、情報をうまく伝えるために、色彩理論やビジュアルデザインについてもしっかりと学ぶ必要があります。



History—Ms. Holdaway

Historyでは、生徒はビジュアル・アーツと多くのつながりを見つけることができます。政治的な漫画を分析することで、色、シンボル、誇張の使い方を分解し、作者の意図や偏見を理解することができます。政治的な漫画やプロパガンダ、新聞や雑誌の記事などのアートは、一次資料としての役割も果たし、文章では捉えきれない人々の生活や意見の側面を明らかにします。アーティストはしばしば、その時代の価値観を反映したり挑戦したりすることで、世論や権力構造、社会運動について深い洞察を提供します。



スタッフ10!



今月のスタッフ10!では、2015年8月にエレメンタリースクールの指導チームに加わったAxel Norwood先生をご紹介します。当初はELS(English Language Support)インストラクターとして勤務され、2018年8月からは教職に就き、現在はG2Aの担任を務めています。

1) 出身地について面白いことを教えてください。

私の故郷はカリフォルニア州のクレイトンという小さな街で、ディアブロ山のふもとに位置しています。周囲はなだらかな丘や森に囲まれており、自然豊かな環境で育ちました。近くには馬の牧場も多く、兄弟と一緒に森や小川を探検したり、木で砦を作ったり、岩でダムを築いたり、いろいろな生き物を捕まえたりしながら過ごしました。そうした日々は、自然の中でのかけがえのない思い出でいっぱいです。

2) 世界で一番好きな場所はどこですか？

世界で一番好きな場所は、東京西部にある青梅です。これまで世界中を旅しましたが、最も幸せを感じるのは、青梅で自然に囲まれながらリラックスし、バーベキューを楽しんでいるときです。夏の暑い日に川で子供たちと遊び、キャンプ用チェアに座ってバーベキューを味わい、花火を楽しみ、夜は温泉でくつろぐ—これに勝るひとはありません。

3) チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。

一度会ってみたい人物は、歌手のJim Croceです。彼の音楽は時代を超えて多くの人に愛されており、親しみやすさと豊かなストーリー性にあふれています。彼の歌からは、たくさんのインスピレーションをもらっています。

4) 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？

一般的な「才能」とは少し異なるかもしれませんが、私の「才能」は、好奇心が創造力を刺激することだと思っています。たとえば、サッカーのコーチをしていると、教室での指導方法を改善するアイデアがひらめくことがあります。また、生徒と一緒にKAPLAブロックで遊んでいると、複雑な概念を教えるための新しい戦略を思いつくこともあります。私は常に黄金律を探し、それを日常の中で見つけて結びつけることを楽しんでいます。

5) ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。



Mr. Norwoodとご家族のみなさん

あまり知られていませんが、私は一卵性双生児です。趣味はよく似ていますが、性格はまったく違います！

6) あなたにとって一番の宝物は？

最も大切にしているものは、ハワイアンスタイルの刻印が施された結婚指輪です。この指輪を見るたびに、家族や家族への誓いを思い出することができます。

7) あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。

私が共感する価値観は、「オープンマインドであること」です。人々が異なる生き方を選んだ背景や理由を理解し、その経験を共有することで、人生はより豊かで面白くなると感じています。

8) もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？

2013年に友人たちがビットコインを購入したとき、自分も一緒に買ってあげればよかったと、今でも思っています…。

9) 自分を高めるために今やっていることは？

私はいつも、自分の興味をどのように指導に生かせるかを考えています。学生時代、教師が教えていることを心から愛している姿に感銘を受けたことがあり、それが今の私の目標にもなっています。

10) ファンに一言お願いします。

普段は教室にすることが多いですが、昔や今の生徒、保護者の皆様が立ち寄ってくださると、とても嬉しく思います。どうぞ気軽に声がけください！

スクールカレンダー—2025-26



ご家族の旅行、特に海外への旅行計画などの利便性を考え、2025-26年度の長期休暇や重要な行事日程を以下に記載します。

ご家族には、生徒が休み明けに必ず登校できるように日程をご確認の上、旅行等の計画を立てて頂きますようお願いいたします。

カレンダーの完全版は2025年6月に配布されます

• 新学年度生徒始業日:

2025年8月18日

• KISTival 2025:

2025年10月25日

• 秋期休暇:

2025年10月26日～11月2日

• 冬期休暇:

2025年12月20日～2026年1月12日

(生徒の新年度の始業日は1月13日火曜日です)

• 春期休暇:

2026年3月21日～29日

• ゴールデンウィーク休暇:

2026年5月2日～6日

• 生徒の最終登校日:

2026年6月10日

クラブ活動のスポットライト



Cultural Explorer's Club (エレメンタリー)

Cultural Explorer's Clubでは、熱心なGrade 1とGrade 2の6人が、毎週、世界中の多様な文化を探る冒険に出かけています。魅力的なディスカッションやビデオ、映像、工作、ゲーム、音楽を通して、それぞれの文化を特徴づける伝統、芸術、物語を深く学んでいます。

クラブ活動のはじめに、私たちはオープンマインドを保ち、多様性を祝福し、今後探検する全ての文化に敬意を示すことを約束する同意書に署名しました。その後、生徒たちは自分だけの「スーツケース」をデコレーションし、訪れる国ごとに「トラベルスタンプ」を押しています。これまで私たちは、多くの素晴らしい場所を“旅”してきました！

9月には、伝統的なランタンを作りながら、中秋節にまつわる習慣や物語を学び、中国の文化を祝いました。続いて、ニュージーランドのマオリ文化を探求し、生徒たちはハカやマオリの模様、そしてそれぞれの意味に興味津々でした。また、新しい生命、成長、強さを象徴するシンボル「コル」を制作しました。その後イタリアにも行き、モザイクアートの美しさを堪能しながら、自分たちだけのカラフルな作品を完成させました。さらに、古代エジプトを訪れた際には、ヒエログリフを使って自分の名前を書き込んだしおりを作りました。



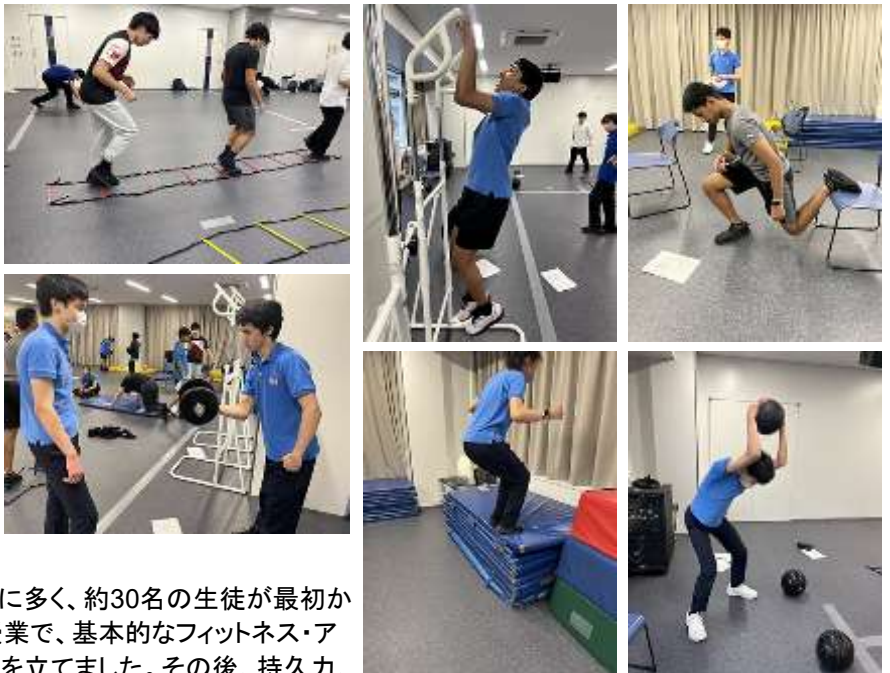
火曜日の午後は、毎回エキサイティングな冒険の時間です。私たちは次の旅を心待ちにしています！

Sophia Probyn
Club Supervisor



ストレングス&コンディショニングクラブ (セカンダリー)

今学期、KISTのセカンダリーの生徒はMr. Buckのもとで様々なストレングス&コンディショニングトレーニングを学ぶ機会がありました。このクラブでは、生徒たちはパーソナル・フィットネスを中心としたテクニックやスキルを学び、生涯にわたって身体リテラシーの高い人間になることを目指しました。生徒たちは、自分のフィットネス目標を達成するため、自分のニーズに合わせた長期的なフィットネス計画を立てる機会を得ました。このクラブは、全力で取り組む意欲のあるセカンダリーの生徒なら誰でも参加が可能でした。



クラブの開始当初から、参加希望者は非常に多く、約30名の生徒が最初から参加しました。生徒たちは最初の2回の授業で、基本的なフィットネス・アセスメントを行い、学期中に達成したい目標を立てました。その後、持久力、柔軟性、筋力など、さまざまな分野に焦点を当てたトレーニングが毎週行われました。各トレーニングは生徒のニーズに合わせて調整可能で、全員が自分の能力や体の状態にあったレベルのトレーニングを行えるようになっていました。また、生徒たちは自分でトレーニングメニューを作る機会もあり、日常生活にフィットネスを取り入れるよう奨励されました。

全体として、このクラブは大成功でした。ほとんどの生徒が目標を達成し、クラブはKISTでの学業の厳しさに対処するために生徒が必要とする発散の場となれたと思います。この最初の成功が今後何年もの間、KISTのプログラムとして定着していくことを願っています！皆さん、おつかれさまでした。セメスター2でまた会えることを楽しみにしています！

Julian Buck
Club Supervisor



図書室ニュース

Elementary Library



図書館は贅沢品ではなく人生の必需品のひとつである。

—Henry Ward Beecher



寒さが厳しくなり、鼻がぐずぐずする季節が近づいてきました。どうぞ、防寒対策と体調管理をお忘れなく！

Autumn celebration ゲストスピーカー

秋休みが始まる前、何人かの保護者の方がボランティアとしてゲストスピーカーに来てくださいました。ライブラリーで秋に関連した休日や伝統についての本を生徒たちに読み聞かせてくださり、生徒たちは楽しそうに話を聞きながら、さまざまな祝日や文化について学びました。また、生徒たちは自分の経験を共有したり、たくさんの質問をしたりと、活発に参加していました。

ボランティアをしてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました！



CAによるライブラリーサポート

2024年11月11日、KISTのCA役員の皆様がエレメンタリースクールライブラリーとLMCのために、新しい本のカバー作業をボランティアで行って

くださいました。作業は非常にスムーズに進み、図書館を支えてくださった役員の皆様に心より感謝申し上げます。

おかげさまで、新しい本は間もなく展示され、生徒たちが借りることができるようになります。皆様のご協力に、改めて感謝いたします！

ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。



ライブラリーでの生徒ボランティア

生徒たちは休み時間にライブラリーを訪れ、本棚の整理や修理が必要な本の確認を手伝ってくれました。また、整理した本を指定された場所にきちんと

並べる作業も行いました。協力してくれた生徒の皆さん、本当にありがとうございます！

ライブラリーセッションのハイライト K1の冒険者たち

K1の最年少の生徒たちは、毎回自由に本を選びながら、ライブラリーの時間を楽しんでいます。年齢に合った本を床に広げ、子どもたちは興味を引かれる本を自分で選びます。この体験を通じて、子どもたちは読書への興味を高め、ワクワクした気持ちを味わっています。子どもたちの笑顔はまるで宝物のようです。



K2の探検者たち

K2の生徒たちには、毎週特別な箱に入れた選りすぐりの本を用意しています。これらの本は、年齢や興味に合うように慎重に選んだものです。生徒たちは本をチェックアウトした後、絵本コーナーを探検します。この「ブックツアー」を通じて、ライブラリーに親しみ、本への関心をさらに深めています。

K3の学習者たち

K3の生徒たちは、毎週月曜日と水曜日に図書室を訪れています。1日は本の返却と貸し出し、もう1日は読書レッスンを行います。読解や音読、ポップコーン・リーディングなどのアクティビティを通して、読書スキルを伸ばし、物語を愛する心を育てています。



G1~G3読み聞かせの時間

時間があるときは、G1からG3の生徒と一緒に音読セッションを行います。生徒と私が交代で物語を読み進め、毎週異なる生徒が「魔法のソファ」に座り、「先生」としてクラスメートに読み聞かせをします。この特別な体験は、生徒たちの自信と読書スキルを高める良い機会となっています。



次のページに続く

前ページの続き

G4～G5本の虫

G4からG5の生徒たちには、時間に余裕があるときに静かな読書タイムを提供しています。生徒たちはライブラリーの快適な場所で好きな本を楽しみ、読書の世界に浸っています。また、読書体験を深めるために音読会も定期的に行っています。



重要な注意事項

ライブラリーで本を借りる際は、必ず図書館用のバッグを持参してください。これは、スクールバッグの中で水がこぼれて本が傷むといった事故を防ぐためです。

Rizza Juan

Elementary Library Supervisor



Library Media Center

現在、生徒や先生は以下の目的でLMCを利用しています。

- レジャー用や英語の授業のための本の貸し出し
- 教科書の貸し出し
- テクノロジーの利用
- Pamojaと自主学习
- 宿題や授業の準備
- 毎週および、2週間ごとの奉仕グループミーティング
- 授業、ミーティング、アセスメント

オンライン資料

印刷物だけでなく、Schooly KIST Librariesのページにあるオンライン教材もあります。Secondaryフォルダには予約シートへのリンクが追加され、LMCで毎日流れている音楽に興味がある場合は、Ambienceプレイリストも提供されています。Spotifyを使用している方には、私のSpotify LMCプレイリストへのリンクも含まれています！

図書館サービス

月曜日と火曜日の放課後には、ライブラリーサービスチームが手伝いに来てくれます。通常、以下のようなことを手伝ってくれます。

- 棚の整理
- 新しい本や返却された本の棚入れ
- 返却期限を過ぎた本や紛失した本の追跡調査
- 英語のサクラメダル
- メールを送信

- 先生やエレメンタリー図書館への配達

サクラメダル

今年の英語サクラメダルでは、LMCは英語科、美術科、図書館サービスチームと協力しています。詳細は近日中にお知らせします。

日本語については、SRCと共同でブッククラブを立ち上げます。KIST Libraries Schoologyのページで表紙と紹介文を見ることができます。Edward (G11A)のこれまでの努力に感謝します。



特別感謝

最後に、毎週LMCのスムーズな運営を支えてくれているMr. Cowe、Ms. Yamamoto、ITチーム、Accountsチーム、英語、日本語チーム、そしてCAに感謝します。



これからの予定

- クリスマス・イベント
- サクラメダル

Ayane Tomita

LMC Supervisor



運動部最新情報

2024年秋シーズン

Kanto Plainクロスカントリー

今年もクロスカントリーには50名のメンバーが参加しましたが、毎週コーチ陣がタイムトライアルを行い、最大で32名の生徒がレースに参加しました。また、KISTは日本で初めて開催されたアジア・パシフィック・イニシアティブ(API)という特別なレースに参加することができました。KISTの選手は今までのような実力を出せませんでしたが、全てのランナーが素晴らしい努力を見せてくれました。



Coach CobbsとCoach Owenには、レースの準備や生徒の送迎をしてくださり、大変感謝しています！今年は、千葉で開催されたAPIレースに何人かのランナーを連れて行ってくれました。また、アシスタントコーチのMr. MerchelとMr. Kiltyの献身に感謝します！

Kanto Varsity男子、JV女子及びISTAA U-18男女バレーボール

女子チームは今年、Kanto JVとISTAA U-18に挑みました。JVチームはG9とG10の選手を中心に強い基盤があるチームで構成され、6勝2敗でシーズンを終え、ASIJで行われたJVトーナメントでは第3シード(1回戦免除)を獲得しました。KISTは準々決勝でYISに見事に勝ち、準決勝でASIJを破り、無敗のKinnickとの決勝戦に迫りました。しかし、彼女たちは最初緊張したまま試合をスタートし、第1セットを接戦の末奪われてしまいました。第2セットでは24-23と勝利まであと一歩でしたが、ゲームポイントでは不運な判定を受け惜しくも敗れてしまいました。総合的な結果は準優勝になりましたが、懸命に努力したおかげで、素晴らしいトーナメントになりました！来年度、彼女たちはKanto Varsityに昇格する予定です。ISTAA U-18チームも過去3年間と同様、非常に拮抗した戦いぶりで、3校が同率で2位に入り、シーズンを終えましたが、獲得セット数でトーナメントの第2シードを獲得しました。自動的にセミファイナルに進み、Columbiaを軽々と破り、見事BSTとの決勝戦に進みました。KISTは第1セットを25-19で惜敗しますが、第2セットは25-10でBSTに圧勝しました。しかし、第3セット中盤で、またラインジャッジによる不運な判定により、惜しくもKISTは17-15で敗れました。女子チームはまた2位となり、非常に悔しい結果となりました。



U-18とJV女子バレーボール

KIST男子チームは2年連続でKanto Varsity男子の部に出場し、全試合に出場しましたが、今シーズンは1勝4敗となりました。BSTで行われたVarsityトーナメントで、男子チームはス



タートで出遅れ、BSTに第1セットを25-21で惜敗しましたが、第2セットでBSTを25-16に圧勝しました。残念ながら緊張と小さなミスが響き、KISTは第3セットを落とし、トーナメントから脱落する結果となりました。ISTAA U-18男子の部では、KISTは3勝2敗で2位タイとなりましたが、セット数で第3シードを獲得しました。KISTはトーナメントを主催し、QFでHorizonを破り、DSTYとのSFを決めました。第1セットを25-21で取り、好調なスタートを切りましたが、第2セットで4点のリードを奪われ、25-22で負けました。また、第3セットもミスが目立ち、15-10でDSTYに敗れました。残念ながら、KISTは前年に獲得したISTAA U-18男子のタイトルを守ることができませんでした。

数年にわたり、KISTバレーボールチームの一員であったG12の選手に格別の感謝を捧げます：Kazuki, Mano, Zoran, Feiru, Tomoyoshi, Yebin, Arjun, Kate, Noah。素晴らしい努力でした。皆さんをコーチでき、光栄です！

—Mr. Ota



Varsity男子バレーボール

Kanto MS女子バレーボール

今年は厳しいシーズンでしたが、女子チームが見せてくれた努力にとても感謝しています！シーズンの初めは少し遅れを取っていくつかの試合で負けてしまったものの、最終的には全体的に素晴らしい成長を遂げ、来年が楽しみです！今シーズン参加してくれたG8の皆さんには、特に感謝しており、皆さんは素晴らしいリーダーシップを発揮してくれました。来年はJVでも頑張ってください！

—Mr. Buck

Mr. Buck, Ms. Rose, MSの女子バレーボール部の新しい選手たちを育てていただき、感謝しています。ありがとうございました！



MS女子バレーボール

次のページに続く

前ページの続き

Kanto MS男子サッカー

今年のMS男子チームは、7敗、2引き分け、2勝という厳しいシーズンでしたが、この結果はチームの実力を反映したものではありません。KISTは、St. Mary'sやNishimachiのような強豪チームと互角に戦い、後半途中まではリードすることもありましたが、選手層の薄さや体力面での課題が影響し、終盤に失速し、勝利を逃していました。炎天下や雨の日も、すべての試合とトレーニングに参加し努力をしてくれた選手たちに感謝します。

—Mr. Beaton and Mr. Harper

今年、MS男子サッカーチームを引き継ぎ、競争力のあるシーズンを送ってくれたCoach BeatonとCoach Harper、本当にありがとうございました。



MS男子サッカー

Kanto Plain Varsity/JV女子テニス部

今年のテニスチームには11人の女子生徒が参加し、Kanto Varsityリーグに出場しました。低学年の選手にとっては厳しい戦いとなりましたが、それでも良い経験となりました。チームはCAJIに快勝し、良いスタートを切りましたが、その後のASIJ、Seisen、ISSHと苦戦を強いられました。また、YISとの試合は雨で中止になりましたJessicaとPrithikaは、10月2日のKanto Varsityトーナメントに出場しました。Jessicaは1回戦が免除となりましたが、YISの第一シード選手との厳しい戦いに挑み、昨年ほどトーナメントで進むことは出来ませんでした。Prithikaは複数の試合に勝ちましたが、準々決勝で敗れました。この数年のG12 Prithikaの努力は素晴らしく、数年前のJVトーナメントでは3位に入賞しました。Jessicaは、低学年の選手たちとともに来年リベンジを目指して強くなって戻ってきてくれるでしょう。

—Mr. Ota

試合やトーナメントに連れて行ってくださったMr. Cowe、大変感謝をしています。

秋休み明けから、冬シーズンのスポーツの練習が始まりました。体育館が新しくなったため、今年からバスケットボールの練習をすべてKISTで行うことができるようになりました。現在、以下のチームが活動中で、間もなく試合が行われます！

Varsity 男子サッカー、JV&U-18男子バスケットボール、JV&U-18女子バスケットボール、MS/U-14男子バスケットボール、JV&MSレスリング。JVとMSの野球は1月中旬にCoach Nogamiのもと開始する予定です。

ホームゲームがありますので、保護者の皆さん、先生、スタッフ、そして生徒の皆さん、カレンダーやスケジュールをご確認の上、ぜひ応援にいらしてください。選手たちは、学校、友達、家族からの応援をとっても喜びます！

試合情報や結果については、[Schoology >> Groups >> Resources](#)をご確認ください。

Dennis Ota
Athletics Coordinator



Important reminder

Interested in applying for admission?

The deadline to apply for admission for the start of the

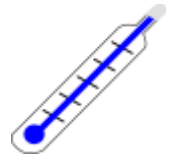
2025-26

school year is:

January 10, 2025
 5:00 p.m. (JST)

Visit our website to learn more and apply.

保健便り



体温について

なぜ体温を測定するの？

私たちの体には体温を調節する機能が備わっており、外界の温度変化に影響されることなく熱の産生と放散によって常に平熱を維持することができます。しかしウイルスや細菌が体内に侵入し感染を引き起こすと、外敵に気づいた免疫細胞が生体防御反応として一気に動き、脳から体温を上昇(発熱)させるよう指令が出されます。高温になると免疫細胞の働きが活発化し、ウイルスや病原体などの力を弱め、免疫を作り体を守ることができます。ゆえに体温測定は体調変化の早期に発見につながります。

人によってなぜ平熱が違うの？

体温には個人差があるので、自分の平熱を知っておくことは大切です。一般的に子どもは代謝が盛んで、大人よりも少し体温は高めです。逆に高齢者は代謝が落ち、筋肉低下、皮下脂肪の減少により体温は低い傾向です。また、食事内容、食後の代謝、睡眠時の安静、日中の運動によっても体温は変化します。

低体温とは？

体温が35.5~36.0℃になります。体温が1℃下がると基礎代謝(じっとしていても体がエネルギーを消費する)は約12~13%低下し、免疫低下の原因になると考えられています。低体温の原因は筋肉量の低下が大半で、近年は運動不足や加齢による筋肉量の減少から低体温の人が増加しています。また50年前の人たちと現代人の平熱はおよそ0.7℃も差があります。運動や栄養摂取を心がけ体温を上げる生活習慣を取り入れて改善していきましょう。

腋式体温計の正しい測定法

- 1 腋に汗はしっかりと拭きとっておきましょう。
- 2 体温計の電源を入れます。
- 3 表示部が全点灯した後、「L℃」が表示されたら検温準備完了です。
- 4 わきの中心に体温計の先端を当てます(先端がわきの中心から外れたり、飛び出していないか)。
- 5 体温計の先を下から上に向けて押し上げるようにはさみます。
- 6 手のひらを上向きにすると脇が閉まり密閉され放熱を避けられます。



Yukiko Yamazaki

School Nurse

Reference:

Terumo body temperature laboratory: Basic knowledge of thermometers. (2021, Aug). Retrieved from <https://www.terumo-taion.jp/activity/knowledge/article01.html>

KIST保護者会(CA)ニュース



2024-25年度CAチーム



9月16日、コミュニケーション委員会は、セカンダリーの保護者のためのSchoologyワークショップの日にコーヒーモーニングを開催し、イベントに協力しました。



8月30日 満員御礼のCAキックオフミーティングにて新生CAチームが結成。就任記念写真。



CA委員会の共催: 10月14日、図書委員会は中古本の販売を大成功させ、イベント委員会は何十着もの中古ユニフォームを販売し、イベントは大盛況にて終わることが出来ました。



CAはインドのお祭りディワリについてのプレゼンテーションビデオを作成し、その上映と共に全KIST生にランプを贈りました。



Web

[KIST CA Diwali.mov](#)



**Welcome all parents!
2024-25**

Sign-up
for CA!!

大学ガイダンスニュース

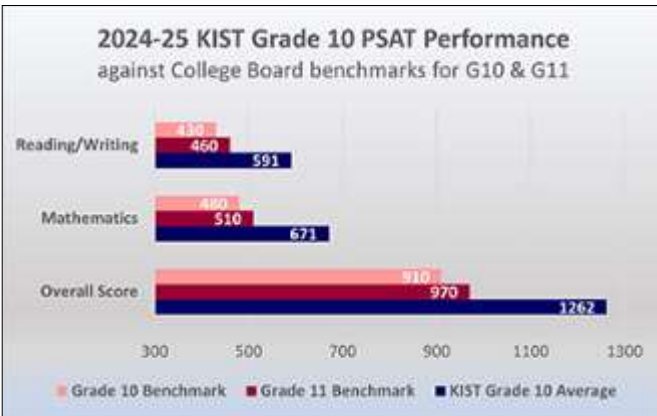
K1~G8の生徒の皆様

これまで、大学ガイダンスニュースは、ほぼG9からG12の生徒に向けて書いてきました。しかし今号では、K1からでも始められる低学年の方に向け、大学進学を考え始めるにあたって大切なことをいくつか紹介したいと思います！

読解力が最優先！読解力とSATとの関係

2025年度卒業のクラスのPSAT/NMSQTの点数

今年、G10の生徒がKIST史上最高の平均PSAT/NMSQTの点数を獲得したことをお伝えできることを誇りに思います。生徒たちは2024年10月にこの試験を受けました。下のグラフの指標では、G10の生徒が910点以上であれば、アメリカの大学の学業的な厳しさに対応できることを示しています。彼らの点数はG11では970点、G12では1010点まで伸びることが予想されます。



私たちの多くが英語を母国語としないため、KISTの生徒がリーディング/ライティングに比べて数学の点数が高いことは驚くことではないかもしれません。しかし、この項目では指標が低いとはいえ、一流大学の多くは、特にリベラルアーツやアイビーリーグの上位校では、数学とリーディング/ライティングの両方のスコアがほぼ同等であることを生徒に期待しています。

アイビーリーグを目指す留学生のリーディングの目標点数は以下の通りです。
(最高点: 800)

Brown	760
Columbia	760
Cornell	740
Dartmouth	750
Harvard	760
Princeton	760
UPenn	750
Yale	760

参考までに、KISTの2024年度卒業のクラスのSATリーディング/ライティングの平均点数は680点でした。

読書とSATとの関係とは？

リーディング/ライティングの点数を上げるのに役立つ一番の戦略、推奨事項は、**毎日読書をして英語の流暢さを向上させることです**。Cambridge Coachingによるブログ記事「[リーディングがSATスコアアップに最適な理由](#)」をご覧ください。以下の重要な要点が書かれています。

- 読む速度が上がり、問題をより効率的に解けるようになります。
- 語彙が増え、新しい単語や既存の単語の新しい使用例を理解できるようになります。
- 文法が上達し、正しい文型を覚えなくても、無意識のうちになんが正しいかを理解できるようになります。「なんとなく、分かる」ようになります。
- より楽しくなる！小さい頃から好きなものを読む習慣を身につけることができれば、大きくなってからSATの練習本を読むのに時間を費やす必要がなくなります。



保護者と生徒の提案！

読書が辛いものではなく、楽しい経験になるよう、一緒に取り組んでください。生徒のモチベーションの高め方は人それぞれですから、ご家庭に合った解決方法を見つけてください！次にあげるものは、いくつかの提案です。

1. **興味深いピックを見つける**: 当然のことかもしれませんが、授業のために一日中本を読むことは、ほとんどの人は好きではありません。しかし、トゥルークライム、ミステリー、ファンタジー、料理の冒険など、誰にとってもユニークで興味があるテーマがあるはずです。
2. **メディアは大きな違いを生む**: 紙の媒体の本を好む人がいます。家族で本のプレゼント交換をしたり、英語の本の図書館や書店に出かけてみたり、オンラインストアを探してみたりするのはどうでしょう。新しい本の匂いはやはり特別で、図書館本の歴史も味わい深いです。テクノロジーに夢中な人もいますが、液晶やOLEDの画面は目に負担がかかり、夜遅くまで本を読むのは難しいです。一方でAmazon KindleやKobo eReaderのようなデバイスの電子ペーパー画面は見やすいし、辞書機能が組み込まれていて便利です。

次のページに続く

前ページの続き

また、本の色をそのまま見るのが好きな人や、たまに漫画を読みたくなる人のために、カラー版も数多く用意されています。それでも難しい場合は、読書への入り口としてオーディオブックから始めるのもいい方法です！

3. **良いお手本になる:** テレビやラジオ、その他の音が常に背景にあると、読書には良い環境ではありません。また、親や兄弟姉妹が読書をしないと、本を読むことに関してお互いを影響できません。多くの人が、生活が忙しいときにその言い訳をしていますが、SATで最高得点を取り、さらに全教科で優れた成績を収めた卒業生に聞くと、共通しているのは、自由時間に多くの本を読んでおり、その習慣が家族全員にも共通していたということです。



次は芸術！

STEAM競争力のある生徒の真の目標

これは今に始まったことではありませんし、おそらく話題に上るのは最後ではないでしょうが、現在の教育情勢は、2000年代初頭に広まったSTEMという概念を超えています。私たちは現在、STEAMこそが、大学入試や就職という競争の激しい市場で生徒が成功を収めるのに役立つ頭字語であることを理解しつつあります。

さて、実際のところ、これは何を意味するのでしょうか？ STEAMは、すべての生徒にもっと美術の授業を取るように説得する試みでもなければ、世界中の美術学校や教師が、工学を勉強しないように説得するためのマーケティング活動でもありません。STEAMとは、科学、技術、工学、数学の分野で研究やキャリアを追求する生徒にとって、アーティストのレンズを通してこれらの分野を追求することが、しばしば最も素晴らしい結果につながることを意味します。芸術と科学は、何百年もの間、根本的に結びついています。Leonardo Da Vinciはその一例で、彼は芸術家として有名になっただけでなく、科学者、発明家としても名を馳せ、両方を融合させた設計やアイデアを考え出しました。



創造的な思考は、STEM分野での革新につながりますが、創造的な思考には栄養も必要です。[テスラコイル](#)のように、音楽をテクノロジーに取り入れる方法を見つける人々の楽しいビデオをネットでよく見かけます。私のお気に入りには、ビジネスと自動車の世界の[ヤマハがトヨタ](#)のフラッグシップ・スーパースポーツカー、レクサスLFAに音楽デザインを融合させるために協力した話です。芸術を教科として学ぶにせよ、自由時間や課外活動の一環として利用するにせよ、[芸術はすべての子供たちの形成期における重要な要素であり、決して無視すべきではありません。](#)

今後の冬のバーチャル・フォーラム

2024-25年の冬フォーラムが間もなくです。

最後にお伝えするのはG8からG12のご家庭へのお知らせです。例年のように、この冬も卒業生との懇談会をオンラインで開催する予定です(対面式もあるかもしれませんが!)。スケジュールは未定ですが、**Purdue、Cambridge、Brown、Manchester (医療)、慶応、Oregon State**などからのスピーカーを予定しています。近日中、メールでお知らせします！

Thomas Waterfall

University Counselor
thomas.waterfall@kist.ed.jp
 Office hours: Monday–Friday,
 8:00 a.m.–5:00 p.m.
 University Guidance Office (4F
 Main Building)

